

胴串 ごとぐしー

Autumn 2023

Vol.43

特集

韓国・春川人形劇祭視察レポート



Chiyoko

Dogushi Vol.43 2023年10月発行 発行：二人形劇のまち飯田「運営協議会」 制作：NPO法人いいた人形劇センター TEL:050-044-2121 FAX:050-044-3594 E-mail: itda-puppet@missjams.or.jp

掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

チケット発売
11月17日

ましゅ&Keiの
クリスマス会

クリスマスに贈る
スペシャルプログラム



オトナのためのクリスマスパーティ!

「KABARETT×かばれっと」

12月23日(土) 19:00開演

[料金]2,000円 ペア3,600円

ファミリーで楽しむクリスマス会

「オブジェクト*パーティ」

12月24日(日) 11:00開演

[料金]子ども(3歳~高校生)600円

大人1,200円

親子1,500円(大人1人・子ども1人)

※3歳未満無料

※会場はいつでも飯田人形劇場です

■予約・問合せ/いいだ人形劇センター

☎050-3583-3594

Dogushi

並木 さんぽ

「〇〇のまち飯田」。最初に思い浮かぶのは「りんご並木」でしょうか。昭和28年に飯田東中学校の生徒たちにより造られた飯田のシンボル。9月には70周年の記念事業が行われました。続いて、近年では「焼肉」でしょうか。情報発信やメディアでの取り上げ具合はかなりの熱量を感じます。さて、忘れてならないのは「人形劇」。今年是人形劇のまちが生まれて45年。夏には4年ぶりにフェスタが本格開催されました。いろいろな「〇〇」に置いて行かれぬよう、もっともっと盛り上げていかねばなりません。

次号は2024年1月発行予定です。(帆)

表紙画:井原千代子



View of IIDA

獅子舞が大好きなキッズが集まった「ダンボールしまいワークショップ」。獅子を舞う男こと“わたちゃん”と一緒に世界にひとつだけの獅子頭をつくり、ぱっちりとした目、どっしりとした鼻など個性的な獅子が完成。10月15日は南信州獅子舞フェスティバルにあわせ元気に舞を披露しました。

第23回 AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市

飯田市 ①

AVIAMA(人形劇の友・友好都市国際協会)は、人形劇を支援している世界の都市が集い、人形劇に関するネットワークの構築を目的に設立された国際協会です。2011年に発足し、現在では世界中の20を超える都市が参加しています。飯田市と友好都市であるフランスのシャルルヴィル・メジエール市が会長を務めており、飯田市は副会長を担っています。

協会の目的は、人形劇芸術の発展を支援することや、人形劇芸術に関する活動を協同で企画運営することで、年に1回総会を開き、意見や情報の交換を行っています。2018年には、8月の世界人形劇フェスティバル・いいだ人形劇フェスタに合わせて、飯田市で総会が開かれました。



2018年飯田市で開かれたAVIAMA総会での記念撮影。世界各国の会員とオブザーバー参加により16の地域が飯田に集まりました



劇場前で観客をお見送りする「ぼお」



野外の無料公演会場



劇場前のワークショップ会場



公式インスタグラムに投稿された写真(来場者撮影)



夜、人形劇関係者が集まってグッズオークションで盛り上がる



上演劇団との懇談。廃材を再利用して人形を制作

スタッフの多くは20〜30代。(財)春川人形劇祭職員のほかワークショップ受講者、学生ボランティアで、揃いのTシャツを着て楽しそうに受付や撮影をしています。まるで大学祭のような雰囲気。会場受付はチケットもぎりや配布物が無く、スタッフ1〜2名がチケット(レシート状)を確認するのみ。今年からチケット発券機も導入しています。会場には必ず撮影スタッフがいて、上演後すぐ、同祭公式インスタグラムに美しい公演写真が掲載されます。SNS広報は財団法人職員が担当。来場した観客のインスタ投稿をチェックして、公式インスタのストーリーで次々と紹介します。

期間中に各国の関係者によるフォーラムも開催されて、いいだ人形劇フェスタ原田雅弘実行委員長が登壇しました。視察に同行した「ぼお」も大活躍。春川人形劇祭のマスコット「ココバウ」と市街地で開催された大規模パレードに出演しました。視察を通じて印象的だったことは、①作品選抜のテーマ設定②シングル&機動力の高い会場運営③活発なSNS広報一です。また猛暑の影響で近年、大議論の末に開催を夏休み期間から秋変更したともお聞きしました。試行錯誤を続けながら、人形劇祭を発展させようとする運営スタッフの真摯な姿勢も印象的でした。貴重な視察経験を、今後のフェスタの活動に生かしていきたいです。

いいだ人形劇フェスタ実行委員会
公演部会 伊藤 緑



春川人形劇場

— 特集 — 韓国 春川人形劇祭 視察レポート

いいだ人形劇フェスタと友好提携を結ぶ韓国の「春川人形劇祭」。韓国を代表する人形劇の祭典は今年35周年を迎えました。9月1日から6日までの日程で開催された人形劇祭に、いいだ人形劇フェスタ実行委員の4人が視察と交流を兼ねて訪ねました。



劇場ロビーでの無料公演

9月上旬、韓国春川市で行われた春川人形劇祭を、いいだ人形劇フェスタ実行委員4人で視察しました。私が知りたかったことは、作品選定の基準、スタッフ体制等の運営手法です。今回、同祭運営スタッフや通訳者の丁寧なサポートのおかげで、多くの気づきを得ることができました。春川市は人口28万人の地方都市で、人形劇祭は地元アマチュア劇団が1989年に始めました。主会場は市郊外にある春川人形劇場で、大部分の上演やイベントが行われます。2008年、いいだ人形劇フェスタ、雲林国際人形劇フェスティバルと「東アジア三大人形劇フェスティバル友好提携」を締結。再来年には、UNIMA世界大会も開催されます。4日間で10作品を観劇しました。チケットが



上演後に劇団と懇談



会場受付 今年から導入された発券機

必要な有料公演、野外や劇場ロビーで上演する無料公演もあります。上演手法や対象年齢を問わず、作品から共通するテーマを感じました。「他者との共生」「混沌から調和へ」「循環(廃材の美術利用含む)」「環境問題」という、いまを生きる私たちや未来世代へのメッセージです。同祭スタッフは「選考の際、共生や多様性を重視している」と話していました。

人形たちとつくるコミュニティスポット ほっこり



『チョンダラーの長者物語』

昨年11月から準備を始め、4月に屋外向けの新作「ドッコイショ劇場」ができました。飯田に古くから伝わる街づくし甚句から始まって、龍の小話、メインとなる糸操り人形の「チョンダラーの長者物語」、江戸時代に登場したちよっく風変わりな着ぐるみ「ちよるけん」の約30分のプログラムです。これまでにほおの日曜日、いいた人形劇フェスタなどで公演をしました。定期的に訪問している丘のりんごHugでも上演しました。小学校高学年以上を対象にしていることもあって、台詞の中に少し難しい言い回しがあったりしますが、小さな子どもたちも含めて熱心に見てくれました。舞台の仕掛けや人形のからくり要素を散りばめて作った作品は、終演後、興味津々に舞台に近づいてくる子どももいます。団体



「ちよるけん」

鑑賞の時には、仕掛けなどの舞台裏を見ることができません。これから伊那谷文化芸術祭や伊那市でも公演を予定していますので、お近くの方はぜひご覧ください。
現在、長野県の「信州の特色ある学び」において寄付を募集しています。私たちは居場所「ほっこり」に来られない地域に行くことも積極的にしています。今回は地元を中心に長野県内にも範囲を広げて、子どもたちのために人形劇による「心の支援」をしていきます。人形づくりに通じて、自分のやりたいことができたり、作品展示によつてちよっく自信がついたりと少しずつ成果も見えてきました。こうした活動に共感していただける方のご協力をお待ちしています。

第32回 すべての道は 飯田へ通ず

きっかけはきづかなぬときに

人形劇コロコン団
荒木文子



写真左が筆者

テレビで人形劇が見られなくなって随分時が経ちました。子どもの頃、学校から帰るとテレビにかじりついて「ひよっこりひよたん島」を毎日見ていました。登場人物のキャラクターがユニークで大好きでした。また「三びきの子ぶた」でネジがぎこぎこ巻かれてスイッチを押すとポンと動き出す、あの瞬間にもわくわくしました。私はそんな時に子どもでいてよかった！
小学5年生と6年生で人形劇クラブに入っていました。なぜ、小学校に入形劇クラブがあったのかわかりませんが、私は2月の終わりの生まれでしたのでまだ小学校の頃はいろいろなことについていけず、グズ



グズしているのを見かねた先生が人形劇クラブに入るよう勧めてくださいました。最初の役は「三びきの子ぶた」のおおかみで憶に残っています。私は変わることができませんでした。

そのことはすっかり忘れていましたが大学に入りサークル活動しようと思ひ、人形劇同好会のチラシを見て「私は人形劇をやったことがあった！」と入会しました。今から思えば運命の出会いですか？

こうして今でも人形劇を続けているのは幾度かのきっかけがあったからです。そのきっかけの一つにいいた人形劇フェスタがあります。また来年、また来年と続いているなければ新しい歩みもあります。まだまだ続くことを願っています。

次号は「人形劇サークルやじろへえ」の小林静子さんです

Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から④

麦島正吉の黒田人形覚書

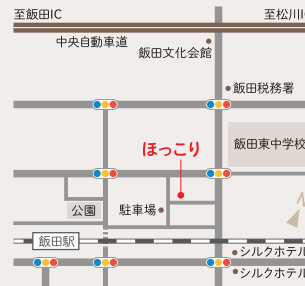
コピー製本した、いわば手作りの本だが、なんと貴重な記録と言えるか。黒田人形保存会会長(1982-1995)として「黒田人形の思い出」を書き記した内容が中心だが、そのエピソードのひとつひとつがとても興味深い。そこには人形、人物、地域、歴史などが重なり、黒田人形が21世紀の現在、社会が変わろうと伝え残さねばならないとても大事なものだと思う。

何でもなような体裁の中に記録された黒田の足跡は、伝統人形芝居が如何に深く生活と繋がった民俗芸能であることかを伝え、書き手はもちろんのこと、こうした地域出版物を作る人たちがいることに伊那谷の人々の豊かな文化を感じるのです。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



ことばとふれあい研究所 / 伊那谷の人形芝居研究室
1996年10月 第2刷



お問合せ
NPO法人いいた人形劇センター
☎050-3583-3594 担当:木田・後藤
hokkoripuppet@gmail.com



開所時間：毎週火曜、第1・3木曜、
第2・4土曜
いずれも14:00~17:00
参加費：無料。時間内は自由に入退室
できます
場所：飯田市高羽町2-5-1
10台収容できる駐車場あり

信州の特色ある学び
詳しくは下のQRコードから
アクセスしてください




“人形劇のまち飯田”から発信

人形劇の楽しさをつたえ、ひろげるワークショップ

2022年度から長野県内各地へ出かける出張講座を始めました。専門的な技術を学べるものから、気軽に人形づくりを体験できるものなど各種プログラムを用意して、人形劇の楽しさを広げていきます。

ハンドパペットをつくらう



口をバクバクと動かせる人形をつくりました。
(信毎メディアガーデン9/15、松川村図書館9/29)

うごいて楽しいどうぶつ人形をつくらう



ウレタンでいろんな動きができる人形をつくりました。
(下條村立図書館9/23)

ロリポップ人形をつくらう



ウレタンと紙コップでペロペロキャンディのような人形をつくりました。
(飯山子子ども館 5/10)

張り子でお面をつくらう(全4回)

11月18日(土)・19日(日)・25日(土)・26日(日)

いずれも10時～16時
場所/飯田文化会館ほか
講師/吉澤亜由美(人形美術家)
料金/4,000円

モンスターパペットをつくらう

出張WS

2024年1月14日(日)

場所/佐久市コスモホール
講師/吉澤亜由美(人形美術家)
参加無料



わかりやすく話す、伝えるための基礎講座② [全2回]

2024年1月20日(土)・27日(土)

場所/川本喜八郎人形美術館2F映像ホール
講師/佐藤圭代(飯田エフエムパーソナリティ)
料金/1,500円

支援:信州アーツカウンシル(一般財団法人長野県文化振興事業団) 文部科学省 令和5年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

ダコタのIIDA日記

Journal de Dakota



久しぶりの経験

こんにちは皆さん!
もう秋になりました!早かったね~
秋に楽しむことはやっぱり秋限定の食べ物。それともお祭り!コロナで長い間中止になって、久しぶりのお祭り経験でした。お祭りの特別な雰囲気は本当に懐かしいです。初めてのお祭りへ行った時は、最初に日本に来た2016年でした。今回は今宮郊戸八幡宮のお祭りへ行きました。お神輿を持ちながら、重さの辛さを抜きにして凄い元気が出て素晴らしいことだと思いました。



今宮郊戸八幡宮の花火。縁日も楽しかった

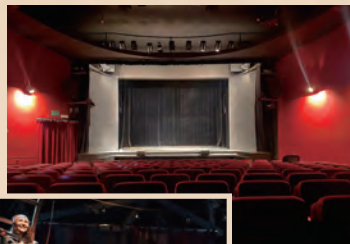
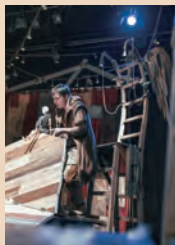
ダコタ・ミドウ 2022年5月に仏シャルルヴィル・メジエールから飯田へ。飯田文化会館で通訳や翻訳、海外とのやりとりを担当。飯田での生活の中で見たこと、感じたこと、人との出会いなどを綴ります。

私の初めてのいい人形劇フェスタも終わりました。忙しかったけど、やっとフェスタが出来て嬉しかったです。皆の笑顔が見えるようになりました!一年間フェスタのために働いてやっと仕事の結果が見えるようになって良かったです。ボランティアの力のおかげでフェスタが出来て素晴らしいことだと思いました。
皆さんお疲れ様です!また来年を楽しみにしてください!

韓国の劇団 Beek Shuang Factoryのサポートをしました(南条田中八幡宮)



舞台の様子



大劇場

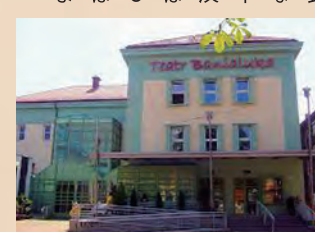


隔年で人形劇フェスティバルを実施しています。来年は第30回を迎え、国内劇団4劇団、国外から15劇団、およそ1000人程度の人形劇人が集まる予定です。運営費用は75%が市からの助成金、25%がチケット収入です。毎回ここで溜息をついてしまいますね。ただ、近年はインディペンデントの劇団も誕生し、旧公立人形劇場と、新しい人形劇場がそれぞれの特徴を生かして、ポーランドの豊かな人形劇界を生み出しているのだと思います。

日本ウニマ通信
世界みて
ある記 15

NPO法人人形劇ファクトリー 松澤 文子
バニアルカ人形劇場
(ポーランド)

ポーランドの南端、人口17万人のビエルスコビェ市にある市立人形劇場です。
1947年設立。ヤチェク・ポブルスキ氏が監督を務める、ポーランドを代表する人形劇団の一つで、大劇場(213席)と小劇場(130席)を持っています。
劇団員は総勢48名。俳優16名、監督2名、スタッフ30名(音響・照明4名、事務局7名、運転手1名、技術者3名、舞台技術者3名、劇場スタッフ、ポーター・清掃員6名、人形・衣装専門家小道具など6名)。昨年は、329公演を行い、観客は約70,000人です。新作は4作品作りました。



バニアルカ人形劇場の外観